

# 第6回 DXくまもと創生会議

日時：令和5年（2023）年2月21日（火）15：00～

場所：知事応接室

## 1 開会

## 2 共同座長挨拶

熊本県知事 蒲島郁夫

九州旅客鉄道株式会社特別顧問 石原 進

## 3 議題

（1）令和4年度事業報告について

（2）令和5年度事業計画について

## 4 意見交換

くまもとDXグランドデザインに基づく取組みの推進について

## 5 閉会

# DXくまもと創生会議 メンバー

(順不同)

共同座長：石原 進 九州旅客鉄道株式会社特別顧問

(同)：蒲島 郁夫 熊本県知事

委員：甲斐 隆博 肥後銀行代表取締役会長

白石 隆 熊本県立大学理事長 ※

高畠 宏一 株式会社ミライト・ワン相談役

永野 芳宣 九州産業大学特命教授

山田 清志 東海大学学長 ※

※オンライン参加予定者

# 議題1

## 令和4年度事業報告

## 令和4年度 熊本県DXの主な成果

---

- (1) 産学官連携・共創によるDX機運の盛り上がり**
- (2) 優良事例の創出**
- (3) 市町村DXの推進**
- (4) 庁内体制の確立**

# (1) 産学官連携・共創によるDX機運の盛り上がり



## ●コンソーシアム会員数の大幅増加

- ・令和4年6月に設立し、事務局は熊本県（デジタル戦略局）
- ・県内外、様々な業種から **340** 社もの団体が入会

（令和5年2月13日現在）

## ●産学官連携・共創の着実な進展

- ・グランドデザインの実現に資する公募型実証事業を実施
- ・3件の枠に **32** 提案（構成団体 **93** 社）

## ●DXへの関心の高まり

- ・DXイベント(7,12月)に合計 **500** 人以上が参加

# (1) 産学官連携・共創によるDX機運の盛り上がり

## オープンイベント

### ■キックオフイベントの開催

日時：2022年7月26日（火）

会場：熊本城ホール（オンライン併用）

参加者：306名（現地141名、オンライン165名）

内容：

- 講演 ①妹尾暁（県デジタル戦略監）「熊本県におけるDXの可能性について」  
②石角友愛（パロアルトインサイト CEO）「いまこそ知りたいDX戦略」
- 県内DX取組事例  
株式会社ヒサノ
- 企業ブース出展



基調講演 石角氏

### ■「事例から学ぶDXの進め方」の開催

日時：2022年12月21日（水）

会場：熊本城ホール（オンライン併用）

参加者：240名（現地120名、オンライン120名）

内容：

- 講演 柳瀬隆志（株式会社グッデイ代表）「データ活用から始めるDX」
- 県内DX導入事例／トークセッション  
RITAグループホールディングス株式会社、金剛株式会社、株式会社Lib Work
- 企業ブース出展



基調講演 柳瀬氏

# (1) 産学官連携・共創によるDX機運の盛り上がり

## セミナー・勉強会

### ■ 「DXセミナー」の開催 (11月15日 オンライン)

概要：

- ・ 企業や団体においてDXを進めていくために必要な考え方、知識を習得する勉強会。
- ・ 主な内容は、DXの基本的な考え方、データ活用による企業経営など。

参加者：59人



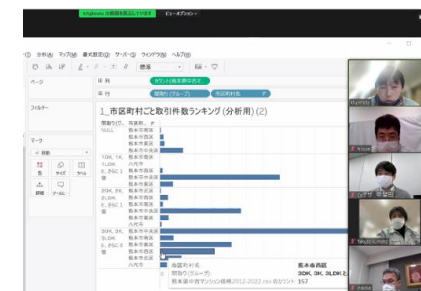
講義の様子

### ■ 「データ活用ブートキャンプ」の開催 (11月～3月、全12回)

概要：

- ・ DXに必要なデータ活用をできる人材の育成をめざすプログラム。
- ・ データの収集・分析・活用を内容に、座学と実習を行うことで、企業の実務に生かせる人材育成を行う。

参加者：17人 (1月10日現在)



## オンラインピッチ

### ■ 「DXオンラインピッチ」の開催 (10月25日、26日 オンライン)

概要：

- ・ デジタル化、DXに必要な技術・サービス等を持つ企業からの情報発信の機会。
- ・ デジタル技術で課題を解決したい企業等にとっても、技術等の情報を知り、自社の取組みの参考とすることを目的。

参加者：

発表企業30社、延べ視聴者数1,300人



## (2) 優良事例の創出

---

### ●公募型実証事業による事例

- ①鳥獣被害対策
- ②健康の見える化
- ③行政事務の効率化など

地域課題を解決する**優良事例 3 件**を創出

### ●地域が主体となった事例

観光協会・IT企業が連携した**道の駅DX**

(道の駅におけるキャッシュレス決済・自宅配送サービスによる「手ぶら観光」の実証)



## (2) 優良事例の創出

### 公募型実証事業① ドローン・AI・オンライン地図を活用した鳥獣対策

#### 【目的】

- 食料の安全保障・農業振興に必要な「鳥獣被害対策」へのデジタル技術の活用

<参加団体> ①株式会社イノP（農家ハンター企業）②ESRIジャパン株式会社（IT企業）

#### 【内容】

- 自治体、企業及び地域住民が保有する鳥獣データ共有のプラットフォーム構築
- 鳥獣捕獲報告書作成アプリの構築

#### 【効果】

- 鳥獣の出没、被害状況の可視化
- 関係者間の情報共有
- 捕獲報告手続きの効率化（農家・市役所）



## (2) 優良事例の創出

### 公募型実証事業②医療と健康データの連携によるヘルスケアの推進

#### 【目的】

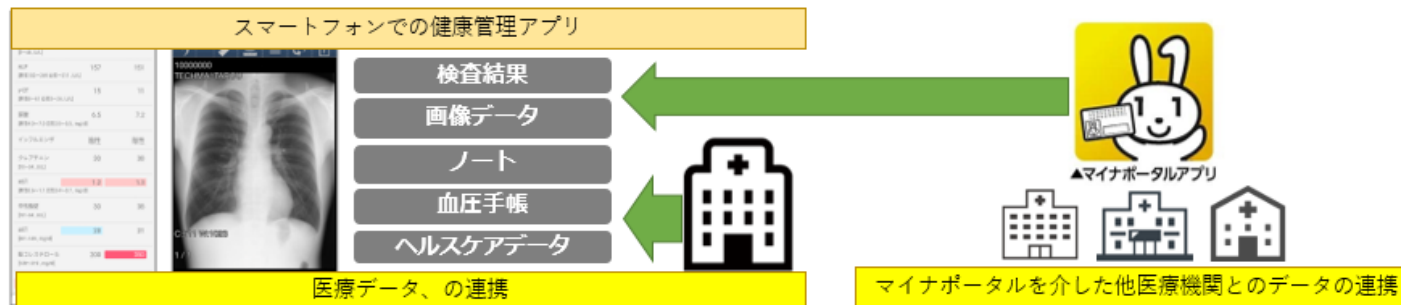
- 健康寿命の延伸に有効な「健康状態の見える化」へのデジタル技術の活用  
<参加団体> ①株式会社PSP（IT企業）、②荒尾市（自治体）、③新生翠病院（医療機関）

#### 【内容】

- スマホでの健康管理アプリの構築
- 医療データ（翠病院）と健康データ（本人）をアプリ上で共有
- 県内で初めてマイナポータルと連携し、他の医療機関との情報連携も実現

#### 【効果】

- 本人がスマホで健康状態を常時確認
- 家族が本人の健康状態を常時確認
- 医療機関と患者間の連絡手段の多様化



## (2) 優良事例の創出

### 公募型実証事業③ ICT技術を活用した農地管理と人材育成

#### 【目的】

- 行政DX・業務効率化を目指した「農地・営農状況調査」へのデジタル技術の活用

<参加団体> ①(株)Skymatix (IT企業)、②(株)岳 (ドローン企業)、③天草市 (自治体)、④天草高校 (教育機関)

#### 【内容】

- 農地や営農状況のプラットフォーム構築
- AIを活用し、営農状況を自動判定
- 天草高校での授業の実施

#### 【効果】

- 営農状況の確認作業の大幅省力化：737時間→194時間（543時間削減／年）
- 営農状況のデータベース化
- デジタル人材の育成にも寄与



## (2) 優良事例の創出

### 道の駅DX

【目的】道の駅とEコマースの融合による「お土産の買い控え」の解消

<参加団体> (一社)肥後おおづ観光協会、カダブラ(株)

【内容】●道の駅におけるキャッシュレス決済導入  
●自宅配送サービスによる「手ぶら観光」の実現

【効果】●観光消費額の増加  
●購買データを用いた  
観光施策等マーケティングへの活用



道の駅に来訪



商品のQRコードを  
読取・決済・配達設定



手ぶらで観光



自宅に商品が  
届く



気に入った商品は  
後で何度でも  
購入できる

### (3) 市町村DXの推進

---

- 住民サービスの利便性向上

行政手続オンライン化について、子育て・介護などの手続きが、今年度中に**県内全市町村で開始**

- マイナンバーカードの普及

県内申請率 **70.6%** (令和5年1月末時点)

- スマートシティの取組み支援

**データ連携基盤**構築に向けた検討を加速化

# (3)市町村DXの推進

## 市町村DX推進計画について

総務省が令和2年12月に策定した「市町村DX推進計画」を踏まえ、自治体は、DXに関連する取り組みを進めている。

### 重点取組事項

#### 1 自治体の情報システムの標準化・共通化

令和7年度を目標に、基幹系20業務システムについて、国の策定する標準仕様に準拠したシステムへ移行

#### 2 自治体の行政手続のオンライン化

令和4年度までに、転出届・転入予約と、主に住民がマイナンバーカードを用いて申請を行うことが想定される手続(31手続)について、マイナンバーカードを用いてオンライン手続を可能に

#### 3 マイナンバーカードの普及促進

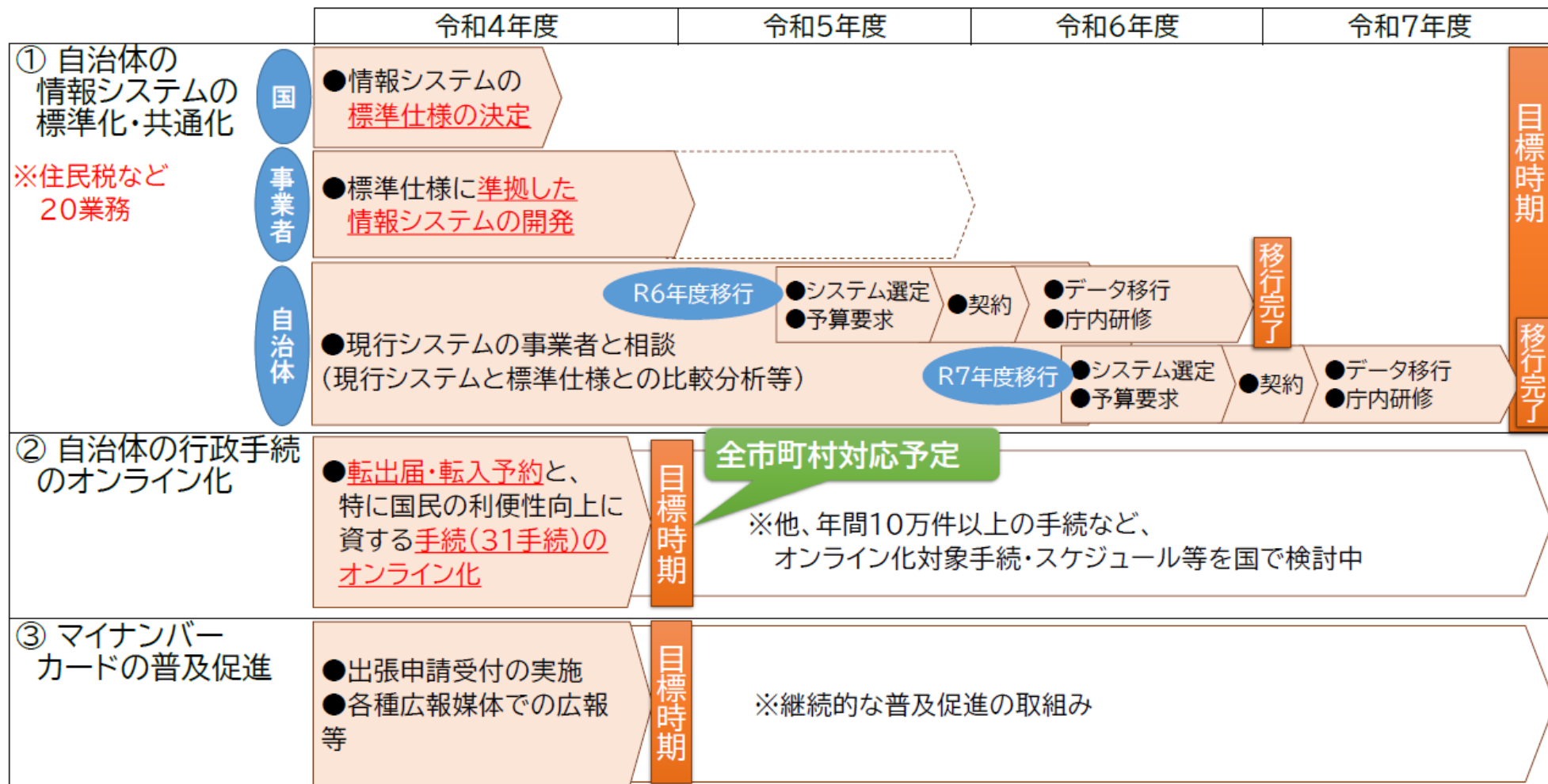
#### 4 自治体のAI・RPAの利用推進

#### 5 テレワークの推進

#### 6 セキュリティ対策の徹底

# (3) 市町村DXの推進

## 主なロードマップ



# (3) 市町村DXの推進

## データ連携基盤について

### ●概要

- ・「データ連携基盤」は、地方自治体や民間等が保有する様々なデータを仲介・連携させる機能・役割をもつもの。
- ・地域におけるデジタルサービスの創造に寄与することが期待されており、国も自治体における構築を推奨。
- ・一方で、個別市町村での検討には課題が多いため、県下共通の基盤整備に向け、県が主導し、令和4年6月以降、スマートシティに取り組む熊本市、八代市、人吉市、荒尾市などと、データ連携基盤に関する「勉強会」を開催。

### ●取組方針

- ・令和6年4月に、県下共通のデータ連携基盤の運用開始を目指す。
- ・基盤整備は、県が国の補助を活用しながら実施。運用費用は県と各市が分担。  
＜勉強会の参加団体＞県・熊本市、八代市、人吉市、荒尾市、合志市、天草市、上天草市

## 2 今後の予定

	基盤の整備	県・市町村調整
令和4年度	●基盤の機能整理	・デジタルサービスの検討 ・基盤の機能検討 ・費用負担のあり方検討
令和5年度	●構築補助を申請 ●基盤の構築（非パーソナル分野） ○パーソナル分野の検討	・R6参加市町村の決定 ・R6運用費用予算化 ・民間データの検討、調整
令和6年度	●運用開始 （非パーソナル分野） ○基盤の構築 （パーソナル分野）→R7運用	・パーソナル分野に関する R7参加市町村の決定 ・R7運用費用予算化 （パーソナル+非パーソナル）



# (参考) データ連携基盤の活用イメージ①

防災

【目指す姿】 ※熊本市「スマートシティくまもと推進戦略」より抜粋  
リアルタイムな情報収集・発信による適切な避難体制の確保や避難行動の促進と避難者の状況把握など安全・安心な市民生活を実現する

サービス

①効率的な避難所運営

②住民の避難状況把握

③住民に応じた避難の呼び掛け等  
(対象者、場所、ルート)

④災害状況把握

⑤早期の災害予測

## 熊本県データ連携基盤

データ

### 【民間分野】

- 人流データ
- 電気、ガスの供給状況
- 顔認証情報
- 各地点における気象情報(民)
- 各地点における警報情報(民)
- 交通情報
- SNS投稿情報

### 【国・県分野】

- 地震警報、大雨等気象情報、水位情報
- カメラ映像、被災状況情報
- 自衛隊派遣等、各省庁支援情報
- 国県道、高速道路等のインフラ情報
- 地質、地図等の地理情報

### 【市町村分野】

- 住民情報
- 水位情報
- 支援物資情報
- 避難施設や入浴施設等施設情報
- 住民の健診/医療/介護情報
- 医療活動情報
- 消防団等からの情報

# (参考) データ連携基盤の活用イメージ②

【目指す姿】 ※熊本市「スマートシティくまもと推進戦略」より抜粋

データ分析に基づく取組効果の見える化やAIを活用した将来予測による健康リテラシーの向上、地域主体の健康づくり活動などによる多様な世代が健康で生きがいをもって暮らすことができるまちを実現する

ヘルスケア

サービス

①本人による健康把握

②個人ごとのサービス  
(運動・食事・セミナー)

③外出・運動促進

④医療機関の予約

⑤医療機関間のデータ共有

熊本県データ連携基盤

データ

## 【民間分野】

- アプリ等ユーザのバイタル情報
- 健診データ
- 医療データ
- お薬手帳
- 健康関連施設 (ジム等)
- 地域通貨
- 健康食事のレシピ

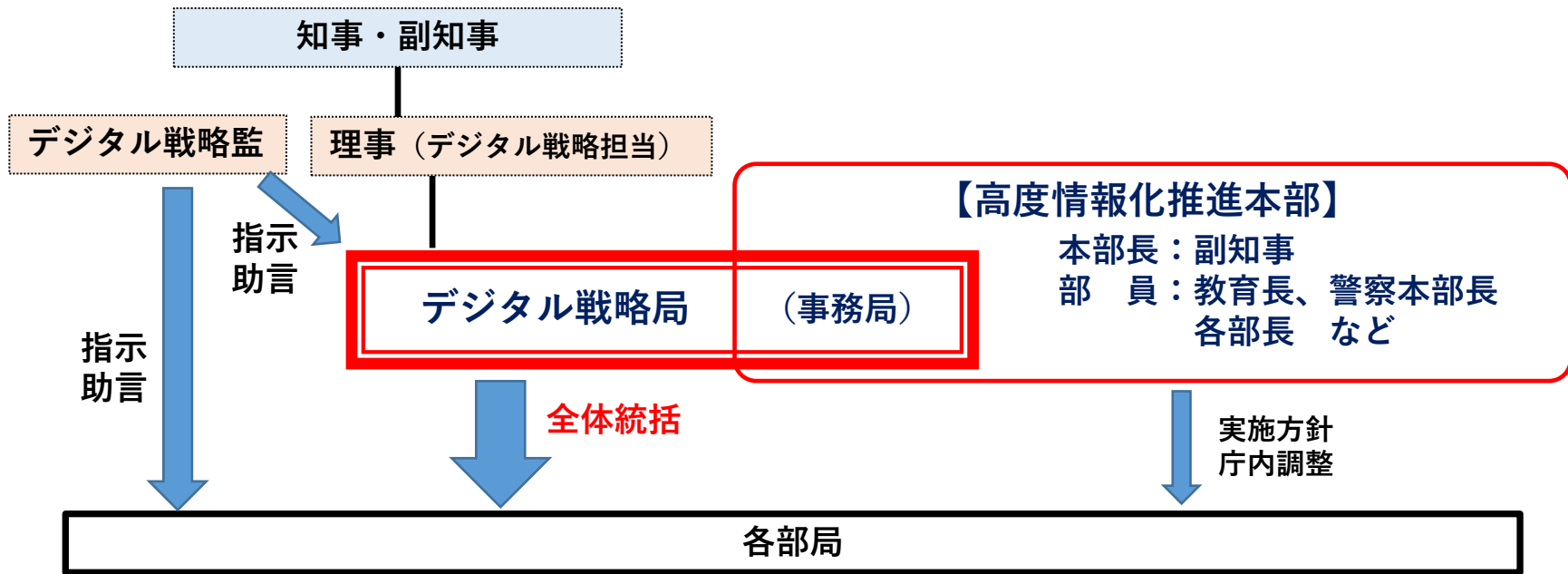
## 【国・県分野】

- 医療機関情報
- 各種統計情報

## 【市町村分野】

- 住民情報
- 住民情報の統計データ
- 健診データ
- 介護情報
- 医療保険情報
- イベント参加者情報

# (4) デジタル戦略局を中心とした庁内のDX推進体制



## 《デジタル戦略局によるDXに関する全体統括の内容》

### 1 全体的な施策の方向付け・進捗管理

- ◎くまもとDXグランドデザイン及び情報化推進計画に基づく取組みの進捗管理

### 2 各部の事業化支援 (DX相談窓口)

- ◎デジタル戦略監を中心に、DXに関するアイデア・構想段階から具体化に向けた伴走支援を実施

### 3 予算化への関与

- ◎高度情報化推進本部において、次年度の各部事業の方向性を確認
- ◎予算化に向けた事前相談を必須とするほか、予算要求時には技術面や金額面から査定

### 4 技術支援・助言

- ◎具体化や事業実施段階における仕様検討等への技術的な支援・助言

# (4) デジタル戦略局を中心とした庁内のDX推進体制

## 予算化への関与

【令和5年度当初予算】新しいくまもと創造に向けた取組み

令和5年度当初予算説明資料抜粋

### 【基本理念】

熊本地震と令和2年7月豪雨からの創造的復興を両輪に、新型コロナウイルス感染症による社会の変容を見据え、持続可能な「新しいくまもと」を創造する。

#### I 令和2年7月豪雨からの創造的復興 238億円

施策1：被災者・被災地域の1日も早い復旧・復興に向けた取組み  
施策2：県内全域で取り組む災害に強い郷土づくり

#### III 熊本地震からの創造的復興 151億円

施策1：暮らし・生活の再建  
施策2：創造的復興の推進

#### II 新型コロナウイルス感染症を踏まえた対応 1,025億円

施策1：感染症対策の体制強化  
施策2：持続可能な社会の実現  
施策3：持続可能な経済活動の実現

#### IV 将来に向けた地方創生の取組み 199億円

施策1：次世代を担う人材の育成  
施策2：若者の地元定着と人材育成  
施策3：安全・安心な社会の実現  
施策4：魅力ある地域づくり

### 【令和5年度における重点的な取組み】

174億円（一部再掲）

(a) 半導体関連産業の更なる集積に向けた取組み

(b) 高度情報化の推進に向けた取組み

(c) 移住定住の推進に向けた取組み

(d) 交通安全水準の向上に資する取組み

「球磨川流域における緑の流域治水の推進」  
・「水 俣 病 問 題」

→高度情報化推進本部会議での議論を踏まえた事業は優先枠として予算要求し、重点的な取組みとして予算化

# (4) デジタル戦略局を中心とした庁内のDX推進体制

## 予算化への関与

【令和5年度当初予算】 令和5年度における重点的な取組み

令和5年度当初予算説明資料抜粋

### (b) 高度情報化の推進に向けた取組み

- ①データ連携基盤構築の推進 [参：P60](#) 66百万円（33百万円）  
県内統一でのDX推進を目的とした、DXサービス創出の基盤となる「エリア・データ連携基盤」の設計・構築に要する経費
- ②DXによる庁内業務の効率化に向けた取組み [参：P61](#)  
52百万円（52百万円）  
DXによる庁内業務の効率化を図るための、システム構築や外部サービス導入に要する経費
- ③県庁・市町村職員のDX人材の育成 [参：P62](#)  
10百万円（10百万円）  
行政DXの推進に向けた県・市町村におけるDX人材の育成に関する研修に要する経費
- ④観光分野におけるDXの推進 [参：P63](#) 68百万円（34百万円）  
デジタルマーケティング及び様々な観光施策の成果を横断的に蓄積・分析するデータ基盤（DMP）の導入に要する経費
- ⑤農林水産分野におけるDXの推進 [参：P64](#)  
95百万円（45百万円）  
スマート農林水産業の研究や実証、生産者への普及や理解促進などの取組みに要する経費
- ⑥その他各部局におけるDXの推進 [参：P65](#)  
11億23百万円（8億19百万円）  
熊本県情報化推進計画に基づく高度情報化の取組みを更に推進するための各施策に要する経費

### (c) 移住定住の推進に向けた取組み

- ①移住定住関連の主な取組み [参：P66](#)  
9億26百万円（5億66百万円）  
移住相談会の実施、関係人口創出など移住定住の促進に要する経費
- (i) 中高年移住就農支援事業 [参：P68](#) 14百万円（14百万円）  
他都道府県から本県に移住する50歳以上の就農希望者に対する農業研修資金の交付及び就農時の機械・施設等の整備費用等の一部を支援
- (ii) 高校卒業生に向けた情報発信事業 [参：P69](#)  
9百万円（5百万円）  
高校卒業生を対象に、「熊本の魅力」や「仕事情報」などを定期的に発信するシステムの構築

### (d) 交通安全水準の向上に資する取組み

- ①交通安全水準の向上に資する取組み [参：P70](#)  
70億27百万円（22億89百万円）  
県全体でハード・ソフト両面から交通安全水準の向上に資する取組みを推進

# 議題2

## 令和5年度事業計画

# 1. デジタル戦略局における主な取組み

---

## (1) 産学官連携・共創によるDX機運の盛り上げ

- コンソーシアムにおけるイベント・各種セミナーの開催<継続>
- ホームページによるセミナー情報、DX事例の紹介<継続>

## (2) 優良事例の創出

- 公募型実証事業による事例創出（先端技術活用枠・一般枠）<拡充>**  
：先端技術（ブロックチェーン、NFT等）の活用可能性の模索

## (3) 市町村DXの推進

- 人材育成・外部デジタル人材の確保
  - ・**デジタル部門の係長等を対象とした「市町村DX研修」の実施<新規>**  
：市町村DXを加速化するけん引役を育成
  - ・**デジタル化専門人材派遣<拡充>**  
：民間のデジタル人材派遣による現場レベルでの取組みのプッシュ型支援
- 情報システムの県・市町村共同運用
  - ・**新たにAI議事録作成システムなど3システムの共同運用を開始<新規>**  
：市町村の人的・財政的コストの負担軽減
- スマートシティ取組支援
  - ・データ連携基盤の構築に向けた検討<継続>

# 1. デジタル戦略局における主な取組み

---

## (4) 企業等DX支援・マッチング

### ●マッチングイベントの実施<新規>

：商談会形式のイベントを実施し、「課題を抱える企業」と、「課題解決手法を有する企業」とのマッチング支援

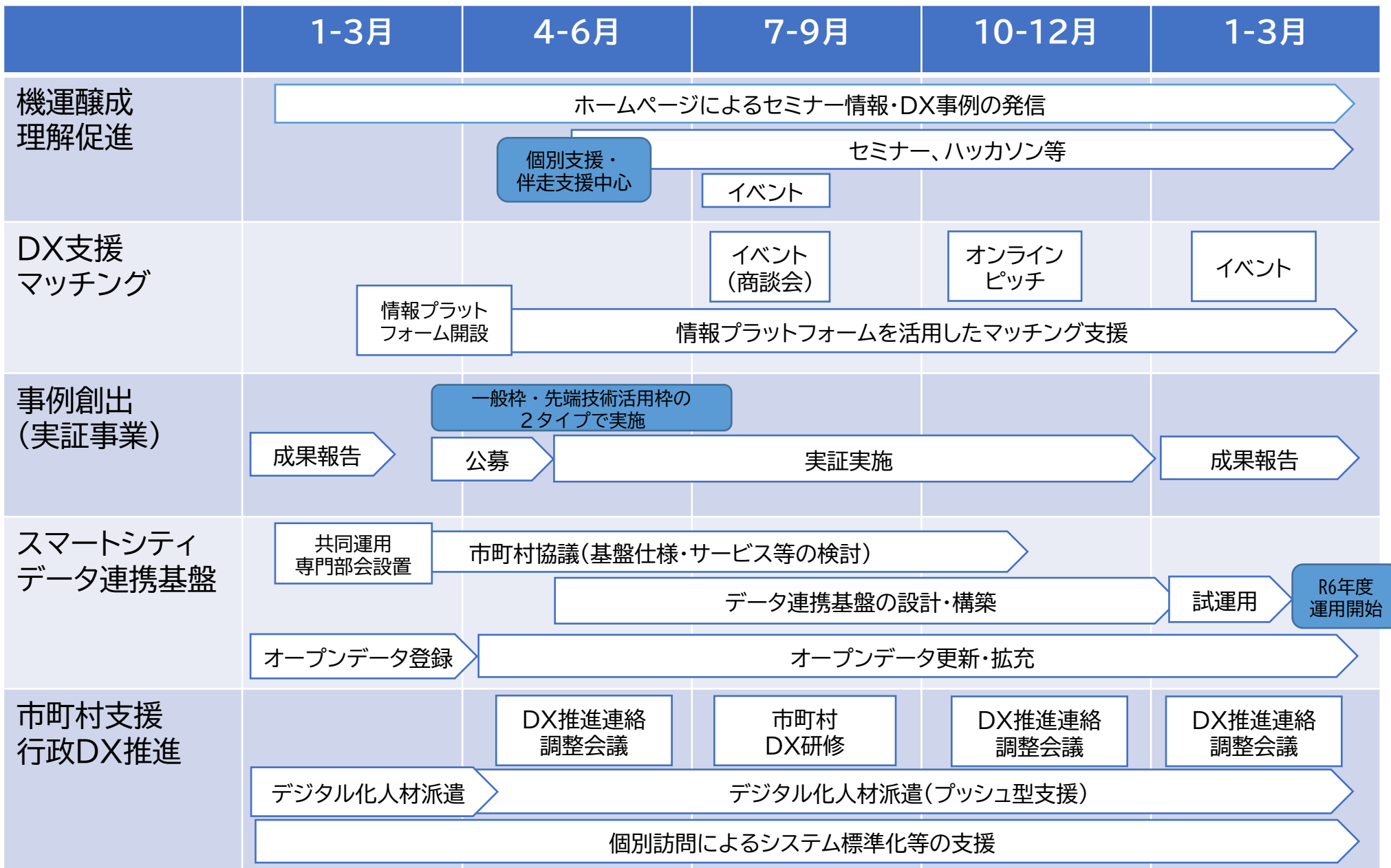
### ●情報プラットフォームを活用したオンラインによるマッチング支援<新規>

：コンソーシアム会員専用サイト「情報プラットフォーム」における、会員間の情報・意見交換等交流促進を通じたマッチング支援



# 1. デジタル戦略局における主な取組み

## 年間スケジュール案



## 2. 各部局における主な取組み

産業の発展を共創し県民所得を伸ばし続ける県くまもと

### 製造業

挑戦する企業を熊本県の様々な産業の発展の中心に

<取組みの視点>

- デジタル技術の導入による企業の生産性向上・競争力強化
- 人材確保・育成による人手不足解消
- 新産業創出に向けた医療データ等の活用環境の整備

<主な取組み>

- 第4次産業革命推進事業（72百万円）
- 熊本空港周辺地域における産業振興創出事業（1億30百万円）

### 農林水産業

熊本でこそ農業を挑戦したくなる成長産業に

<取組みの視点>

- スマート農業技術の導入・確立による生産性向上・人手不足解消
- デジタル技術を活用した安定供給体制の構築

<主な取組み>

- スマート農業の導入推進（42百万円）
- DXを活用した園芸産地の維持・強化（39百万円）
- 原木しいたけ生産DX実証事業（8百万円）
- くまもと県産木材DX推進事業（7百万円）
- 県産あさり流通推進事業（49百万円）

## 2. 各部局における主な取組み

産業の発展を共創し県民所得を伸ばし続ける県くまもと

### 観光 新しい観光スタイルを熊本県の切り札に

<取組みの視点>

- デジタル技術を活用した本県観光の魅力発信
- データ収集・分析によるマーケティング精度向上を通じた、来県数・観光消費額の増加
- データに基づく施策立案・実行(EBPM)体制の確立による効率的な誘客促進・満足度向上

<主な取組み>

- デジタルマーケティング事業（57百万円）
- スマートツーリズム基盤創生・活用事業（11百万円）
- 旅するくまモンパスポート事業（123百万円）

ひとを引きつける快適・安心な生活環境を共創する県くまもと

### ヘルスケア 熊本県でこそ新たなヘルスケアシステムの構築へ

<取組みの視点>

- 福祉・医療ニーズの多様化への対応・サービスの質向上
- ICT機器等の導入による職員の負担軽減

<主な取組み>

- 周産期医療対策事業（20百万円）
- 「くまもとスタイル」子育て推進事業（5百万円）
- 福祉現場におけるICT化等推進事業（196百万円）

## 2. 各部局における主な取組み

### 防 災

オールくまもとで経験を活かして災害に強い熊本県に

<取組みの視点>

- 災害データの共有システム導入・構築による迅速な情報共有

<主な取組み>

- 防災DX推進事業（5百万円）
- 山地災害情報共有システム構築事業（25百万円）

### 住民サービス

熊本県を自然の恵みだけでなく便利さも実感できる地域社会へ

<取組みの視点>

- 手続の電子化、オープンデータ化、キャッシュレス化による県民サービスの向上

<主な取組み>

- 施設管理データベースシステムの構築事業（127百万円）
- 建築確認関連DX推進事業（20百万円）
- キャッシュレス収納（1百万円）

### 教 育

熊本県を地域社会の担い手に選ばれる郷土に

<取組みの視点>

- ICT環境の充実・ICT活用の質の向上による個別最適な学びの提供
- 県立学校における働き方改革を通じた教職員の負担軽減

<主な取組み>

- 1人1台端末環境整備事業等（870百万円）
- 教育情報システム運用事業（45百万円）
- 奨学給付金・育英資金総合新システム事業（7百万円）